



新春を迎えて

東京無線支部長 若生憲司

明けましておめでとうございます。

猖獗を極めたコロナウイルス感染症も、大々的なワクチン接種が功を奏して、あと一息で、昔のような平穏な日常が戻ってくることを予想させる新年を迎えました。

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会は、大会開催の1年延期、各種競技の無観客実施と様々な紆余曲折はありましたが、沢山の感動を残し、無事2024年パリ大会へバトンを渡すことができました。

コロナ罹患の恐れを抱えながら炎暑の中で無線関係大会支援業務にご活躍された無線の皆さんに心から敬意を表します。

労働生産年齢人口がピークアウトすると、それまでの経済成長が終わり、低成長の時代に入るのだそうです。日本は既に1995年に生産年齢人口がピークを迎え、2020年には60%を切りました。

その後の景気の低迷は皆さんご存じの通りです。

またGDP世界3位の経済大国であるにもかかわらず、現在まで20年以上も労働者の実質賃金が上がらず、OECD加盟国の中でも中位以下の賃金水準という不面目な状況が続いています。

我々OBは多かれ少なかれ高度経済成長を体験しその恩恵にも浴しましたが、そのような明るい体験が一度もなく、ロスジェネ世代やリーマンショック世代と言われている現役の諸君がコロナ禍でこれ以上苦しい生活を強いられることがあってはなりません。

コロナ克服の見通しが立った今、日本経済を再建し、2022年が、現役の皆さんにとって幸せを実感できる日本になることを心から願って新年のご挨拶といたします。

